



生産組織の新たな取り組み支援 あぐりチャレンジ事業で17件採択

JAは9月24日、令和6年度あぐりチャレンジ事業審査会を沼津市のサテライト本店で開催しました。生産部会などから23件の申請があり、「チャレンジ性」「実行性」「将来性」など10項目を総合的に審査。ワサビ・水稲などの新技術や農業機械の導入など17件1,862万円を採択しました。今後は営農アドバイザーが支援を続け、生産組織とともに農業生産の拡大に向けて取り組んでいきます。



岡田晃一営農経済委員長や高木力常務など役職員が審査

座学と調理でジビエを学ぶ

女性部が地区を越えた交流

女子大学OG会と女性部フレッシュミズは10月11日、長泉支店でジビエセミナーを開き、3地区から18人が参加しました。鳥獣害が深刻な中、捕獲鳥獣のジビエ活用を増やそうと開いたものです。講座では、日本ジビエ振興協会代表でシェフの藤木徳彦さんがジビエについて説明し、鹿肉を使った料理教室を行いました。参加者は「栄養豊富なので子どもにも食べさせたい」と話しました。



藤木シェフ(右)に教わりながら調理を学ぶ参加者



役職員と家族が交通安全誓う 管内警察署に交通安全宣言書を提出

JAは、秋の全国交通安全運動にあわせて管内警察署に交通安全宣言書を提出しました。JAと関連会社の役職員・社員とその家族2,505世帯6,356人が署名し、安全で快適な交通社会づくりを誓いました。9月18日には梶穀組合長が沼津警察署を訪れ、青木浩明署長に同署管内事業所の役職員の宣言書を手渡しました。青木署長は「地域の皆さまが主役で交通安全により一層励んでほしい」と呼びかけました。



梶組合長(右)が青木署長に宣言書を提出



子ども食堂へ農産物を寄贈

御殿場市社会福祉大会で表彰

ファーマーズ御殿場出荷者協議会は、御殿場市の子ども食堂が月2回、同ファーマーズで行うフードドライブに長年にわたり農産物を提供しています。同活動が社会福祉の向上と地域貢献に寄与したとして、10月5日に行われた第36回御殿場市社会福祉大会で表彰されました。同会員は「子どもたちに新鮮な旬の農産物を食べてもらえる力になれてうれしい」と話しました。



表彰状を手にする稲義行出荷者協議会会長



JAふじ伊豆はSDGs「1~17の目標」につながる取り組みを行っています。各所に記載のマークはSDGs目標アイコンです。

年金友の会イベント大盛況

石川さゆりアコースティックライブに11,500人

JAは、令和6年度年金友の会のメインイベントで「石川さゆりアコースティックライブ」を開催しました。9月19日の三島会場を皮切りに、10月14日まで7会場で開催。JAで年金受給、受給予約の申し込みをいただいているお客さまを対象に、合計11,500人が来場しました。

会場の入り口では、石川さんの「能登半島」という曲にちなみ、1月の能登半島地震に対する募金活動を実施。7会場ですべて2,133,221円が集まり、同地域に寄付しました。

石川さんは同曲の他、代表曲の「津軽海峡・冬景色」「天城越え」など数々の名曲を披露。アコースティックライブならではの演奏と温かい歌声、圧倒的な歌唱力に魅了されました。参加されたお客さまからは「素晴らしい歌声に感動した」など喜びの声を多数いただきました。

12月13日から19日までJA各支店で年金感謝ウィークを開催します。詳しくは21ページをご覧ください。皆さまのご来店をお待ちしています。



素晴らしい歌声で会場を魅了する石川さゆりさん



募金への協力を呼びかける藤沼和明専務(右)ら役職員

農家組合員の意思反映へ

生産組織34組織とJA役職員が意見交換会



JAへの要望と対応策などを意見交換



JAは9月から10月にかけて、主要6品目(イチゴ、柑橘、ワサビ、花き、水稲、畜産)などの生産組織34組織と当JA役職員との意見交換会を8地区で開催しました。

生産組織代表者と高木力営農担当常務、営農販売部、地区本部職員、トップ営農指導員らが出席。生産組織で取り組むべき項目や営農アドバイザーに期待する項目、JAや行政に対する要望など、生産者の実情を交えながら協議しました。

生産者からは「生産資材の助成について検討してほしい」などの意見が寄せられ、高木常務は「いただいた貴重な意見を次期3か年計画にも取り入れていきたい」と話しました。11月には、地域戦略品目24品目の生産組織とも意見交換を行いました。農家組合員の皆さまの意思を事業に反映させていきます。



裾野市産米を宮中祭祀に献穀 献穀事業で粒張り良い「きぬむすめ」

令和6年度新嘗祭の献穀事業で、静岡県からは裾野市産の「きぬむすめ」が献上されました。

なんすん耕種部会の志村重利さんの水田で5月27日に御田植祭、9月24日に抜穂祭、10月22日には皇居で献納式典が行われました。献穀者の志村さんは「今夏の猛暑の中、丁寧な栽培管理を心掛け高温障害も少なく、粒張りの良い高品質な『きぬむすめ』を献上することができた」と話しました。



抜穂祭で収穫を行った志村さんご家族



農福連携で障がい者雇用促進 特定非営利活動法人利用者がバック詰め作業

御殿場キウイフルーツ出荷組合は、農福連携（農業と福祉の連携）で令和元年から「レインボーレド」のバック詰め作業を御殿場市内の特定非営利活動法人「のぞみ作業所」に委託しています。

10月15日には同施設利用者など約10人が、同地区のJA施設で、約550kgをバック詰めしました。バック詰めされた商品は「ファーマーズ御殿場」を中心に、11月中旬頃まで販売しました。



丁寧にバック詰め作業を行う施設利用者



園児がミカン園で収穫体験 青壮年部が収穫方法を教える

青壮年部あいら伊豆地区本部は9月30日、伊東みかん園協会主催のミカン狩りオープンイベントに参加し、伊東市の保育園児17人を招いた収穫体験に協力しました。

園児たちは青壮年部員に教わりながら、好みのミカンを手でクルクルと回してもぎ取り「甘くておいしい」とその場で味わいました。同部では今後も食農教育活動に貢献します。



青壮年部員（左）と一緒に収穫したミカンを味わう園児たち



生産者に販売戦略を発表 若手職員が中心となり提案

三島函南地区営農販売課は9月27日、生産者を招いて、ブロックリーやエダマメなど5つの対象品目の販売戦略・経営戦略・産地振興・食農教育への取り組みの発表会を開きました。

若手職員が中心となり、品種選定や経費削減、販路開拓など生産の一連の流れを総合的に分析し課題解決策を提案。発表後には生産者から「ぜひ協力したい」などの心強い声をかけられました。



農業所得向上の取り組みを発表する職員



JA職員が茶講座開き愛飲促進 管内小中学生計1,523人が知識深める

JAではお茶を飲む習慣の定着化を目指して10月から1月にかけて、各地区の職員が地元の小中学校・特別支援学校を訪れ「静岡茶講座」を開いています。

10月22日、23日には富士宮市立富士根南小学校3年生137人に栽培の歴史や品種、急須を使った入れ方を説明しました。児童たちは「急須のお茶はいい香りで好き」「家族に教えた」と話しました。



職員から急須でのお茶の入れ方を教わる児童



品質向上し選ばれる産地へ 特産「富士の根付きシキミ」の園地共進会開催

富士地区しきみ部会は10月25日、同地区12カ所の園地を対象にシキミを審査する園地共進会を開きました。市場関係者や県・市・JAの職員が審査員となり、24人の部会員と共にシキミの園層・ボリューム・管理状況・葉色を確認しました。

2年生の部では勝亦重治さん、3年生の部では川口時男さんが最優秀賞に輝きました。同共進会は生産技術や品質向上を目的に毎年開催しています。



審査員や部会員がシキミの栽培状況を確認



イチゴ品質良く、仕上がり上々 出荷シーズン本格化

伊豆の国地区で特産のイチゴの出荷が10月27日から始まりました。初出荷当日には伊豆の国苺委員会の役員やJAの販売担当が葎山野菜集出荷場で今期の出来を確認しました。

今期は暑さの影響でやや小粒傾向なもの、色や艶などの品質は上々。12月には年内出荷のピークを迎え、来年5月末までに東京や神奈川、長野、近在市場に480万パックの出荷を見込んでいます。



初出荷の「きらび香」の品質を確認する生産者ら



小学生が伝統のワサビ生産学ぶ ワサビ栽培と自然の素晴らしさを再認識

河津町立河津小学校3年生45人と5年生43人が10月7日、(株)わさび共販委員会青年部員のワサビ田を見学し、地元特産のワサビ栽培や自然の豊かさについて学びました。

ワサビ栽培には肥料や農薬を使わず、天城山系から流れ込む湧水の栄養で育つことや、パンを使った実験を行い、ワサビの殺菌作用を確認しました。



ワサビ田の水の冷たさを感じる児童たち